

【平成25年が始まりました】

1月7日(月)に3学期が始まりました。

冬休み中、大きな事故やけがもなく子どもたちと新しい年を迎え、平成25年をスタートすることができたことをうれしく思っています。

今年も保護者の方々、地域の方々には大変お世話になりますが、引き続き長尾小学校の教育への理解と協力をよろしくお願いします。

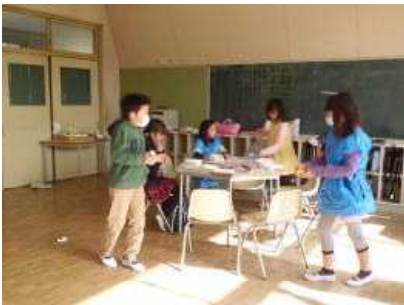
3学期は、授業日が54日と大変短いですが、1年間のまとめをするとても大切な時期であるので、一日一日をしっかりと生活することを子どもたちに始業式で話しました。

子どもたちが日々、充実した時間を学校で過ごせるように家庭での規則正しい生活をよろしくお願いします。また、3学期はインフルエンザが流行する時期でもあります。手洗いやうがいをしっかりさせるとともに、検温等による健康観察についてもよろしくお願いします。



【1年生生活科 昔遊び】

【楽しいな休み時間】



子どもたちは、休み時間にいろいろなことを考え、友だちとかかわりながら遊びます。サッカーのようにルールがあってそれに従って遊ぶこともあれば、子どもたちが考えた遊びでは、それに参加する者が約束やルールを決めます。このような遊びは、子どもたちにとって、とても楽しい時間であるとともに、社会性を身につけていく絶好の機会になっています。

【劇を演じる子どもたち】

少し前まで、3年生では「劇あそび」がブームになっていました。

劇は演ずることのおもしろさもありますが、観客がいないと単なる「ごっこ遊び」になってしまいます。3年生では、ちゃんと観客もいます。観客になる子どもたちも相談して席を決めます。その中には「先生の席」も用意されていました。ただ見るだけではなく、観客役の子どもたちも、見る側のルールを作って楽しむわけです。

劇を演ずる子どもたちは、台本も衣装も自分たちで用意しているようでした。自分の家からキャストにあった服を持ってきたり、水色の大きめのビニール袋で服を仕立てたりしていました。ビニールテープはいろいろに活用していました。

ある程度の長さにしたビニールテープを二つ折りにしてベルトを作ったり、黒いビニールテープを細かく細工してつけまつけを作ったりしている姿をみると「子どもは遊びの天才」



【劇を見守る子どもたち】

だと思えます。

この時期、校内なわとび大会にむけた練習にクラス全員で取り組むため、子どもたちの「劇あそび」は短期間で終わりましたが、この遊びを通して、子どもたちの想像力も友だちとかかわる力も高まったように思います。

【車椅子バスケット 高橋俊一郎さんをお招きして】



【子どもたちと試合を行う高橋さん】

1月22日（火）に日本車椅子バスケットボール連盟関東ブロック会長の高橋俊一郎さんをお招きして「出会った人に感謝、そして、目標をもって生きよう」という演題で講演をしていただきました。

初めに、体育館で高橋さんと代表の子どもがバスケットの試合をしました。パスの正確さ、そして、シュートに子どもたちも驚いていました。また、代表として出場した子の素早いプレイにも拍手をしていました。

試合終了後、食堂に会場を移して、高橋さんの話を聞きました。

剣道の練習中のケガで脊椎を痛めてしまい車椅子での生活になったこと、そして、生きる希望を失った時期もあったそうです。それでも、看護師さんや医師、そして、高校のクラスメートに支えられて卒業をできたことが自分にとって、周りの人たちにとっても大きな意味があったことを聞きました。

胸から下の感覚がなく、かろうじて動く人差し指のリハビリから始め、車椅子に乗り移ることもできなかつた高橋さんの手は、現在も親指、人差し指、中指の3本だけしか使えないそうですが、握力が60Kgもあるそうです。何事にもあきらめずに取り組む続けることの大切さを知ることができました。

最後に高橋さんからは、これから大人になっていく子供たちに障害のある方への支援や障害のある方と一緒に生活できる環境づくりということを考えてほしいという話もありました。



【高橋さんの講演の様子】

【書き初め大会・校内書き初め展】



【書き初めに取り組む5年生】

3学期が始まり、9日から16日までの授業時間に学年ごとに書き初め大会を行いました。1・2年生は硬筆、3年生から6年生は毛筆で丁寧に力強く書けるように一人一人が取り組みました。

できあがった作品は、教室前の廊下に展示し、21日から25日を校内書き初め展として保護者や地域の方々にも見ていただけるようにしました。期間中、来校いただいた皆様、大変ありがとうございました。